

花巻市石鳥谷地域協議会 平成24年度第4回会議 会議録

【日 時】 平成25年1月31日（木）午後1時30分～午後3時50分

【場 所】 石鳥谷総合支所 大会議室

【出席者】 出席委員：14名（欠席委員：1名 藤根勝榮）

菅原昭造、似内英悦、熊谷弘子、高橋貢、岩舘大輔、伊藤邦彦、樋口正洋、立花英一、菅原久男、熊谷幸雄、玉山規矩夫、藤原眞紀男、晴山美紀子、佐々木さつき

事務局出席者（石鳥谷総合支所）：9名

菅原総合支所長、伊藤地域振興課長、熊谷市民サービス課長、関地域支援監、菅原地域振興課長補佐、高橋同課長補佐、小原市民サービス課長補佐、佐々木地域づくり係長、熊谷主査

【協 議】

(1) 石鳥谷地域課題について

- ・地域課題について、継続して協議した。

（地域課題11件の提案のうち、提案趣旨説明が未済の2件について説明を受け、継続課題とあわせて協議した。）

(2) その他

- ・石鳥谷地域協議会の協議内容のお知らせを石鳥谷地域に行政区回覧することとした。

【その他】 会議を傍聴した者 なし

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における配付資料は以下のとおり

- ・主な地域行事（花巻・大迫・石鳥谷・東和）
- ・事例紹介：埼玉県みやのかわ商店街振興組合
- ・まとめの方向（案）
- ・石鳥谷中学校給食費未納状況〔樋口委員提供資料〕

顛末

○ 進行／伊藤地域振興課長

1 開 会 似内英悦副会長が開会を宣した。13：30

2 挨 拶

菅原昭造会長

平成25年新しい年を迎えましたが、年の初めから体調を崩しております。なんとか声は出ますが、本日の進行は似内副会長にお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

第4回ということですが、石鳥谷のいろいろな課題を協議して参りたいと思います。平成24年度のこの会議は、残るところあと1回程と考えております。平成24年度はいろいろな事柄を皆さんとともに勉強して参りました。何とかきちんとした形でまとめていきたいと思ひます。

本日の会議は、進行を似内副会長にお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

3 協 議

(会長、副会長の座席を交換移動)

似内英悦副会長

それでは、急遽ですが、私が進めて参りたいと思ひます。協議の(1)石鳥谷地域の地域課題について入らせていただきます。

進め方について、事務局からございましたらお願いします。

伊藤地域振興課長

ただ今、会長さんからのご挨拶にもございましたとおり、今年度の会議をあと1回程度と考えてございますので、今日の会議でまとめられるものはまとめる方向で進めていただければと思ひます。お手元に「まとめの方向整理(案)」というものを配付させていただいております。こちらからのお願いとなりますが、これに埋めていけるような形で、皆さんにご協議いただければと考えております。

なお、今日は各課題で前回にお問い合わせのあったものについては協議に入る前にご報告させていただきたいと思ひます。

似内英悦副会長

それでは、「まとめの方向整理(案)」は項目毎に作成するような形で進めて参りたいと思ひます。前回いくつか協議をまとめたところがございましたので、

まとめは7つという考え方で進めていきたいと思います。

その前に、樋口委員さんが前回の会議に欠席でございましたので、課題名の(3)地域行事の現状と(4)学校給食費の未納問題について、課題の概要等をご説明いただけますか。

樋口正洋委員

はい。私の方から、(3)地域行事の現状と(4)学校給食費の未納問題についてお話いたします。

まず(4)の方からお話します。学校給食費の未納問題に関してですが、これは数年前に報道などで話題になったりしていますが、学校では大変困っている問題です。私は八幡小学校と石鳥谷中学校に子供が在籍していますが、八幡小学校の給食費に関しては、月が遅れても年度では全部入っています。一方、石鳥谷中学校に関しては、先ほど皆さんに資料をお配りしましたが、卒業生も含めてご覧のとおりで、花巻市内で一番悪いです。

(以下、資料の内容について説明)

学校の方で困っているのは、給食費を払っていない家庭は学級費も滞っているということがあります。昨年は、口座引き落とし学級費、修学旅行費の積立ても一度に行っていたものをそれぞれに行うことにしたということです。つまり、未納は給食費だけではないということです。

学校給食未納の影響は、メニューへ出るということになります。

学校での、未納解消への具体的な対応は、在校生の場合は、三者面談の際に親に話すことをして、卒業生については、定期的に文書を送付しているということです。先日は、すでに就職している卒業生が払いに来たということがあったそうです。以上です。

似内英悦副会長

樋口委員さんからご提案があったわけですが、このことについて皆さんからのご意見をいただきたいと思います。どなたかご意見ありませんでしょうか。

佐々木さつき委員

確認ですけれども、未納の家庭は払えないのか払わないのか、確認しているのでしょうか。

樋口正洋委員

たとえば、生活保護を受けている人は免除になっています。先ほどの修学旅行の話がありましたが、修学旅行の時期に未納だと旅行に行けないので、未納の家庭へ修学旅行代金だけでも一括して払ってほしいと話す、すぐ払うそうです。未納を理由に修学旅行へ行かなかった子供はいないそうです。だから、たぶん払えるのだと思います。それぞれ厳しい家庭はあると思いますが。

岩館大輔委員

これは、差し押さえればいいのかではないでしょうか。小額訴訟というのがありますので、裁判所の手続きだけでできる制度があります。何ヶ月も払わないで文書を送っても払わないときは、給料の差し押さえがありますよと。商売をする側からするとそう思います。

伊藤地域振興課長

当課で事前に、石鳥谷学校給食センターから聞いた話がございますのでご紹介いたします。

熊谷主査

学校給食費ですが、これはすべて食材に充てられるものです。調理にかかる人件費、光熱水費、燃料費などはすべて市からの公費支出になっています。

実際、平成22年には年度末に不足し、平成23年度予算から繰上げ充当した経緯があるそうです。その頃、学校給食費の未納問題が各学校で問題になり収納への取組みが強化されたのではないかということでした。

教育委員会では「学校給食未納対策基本方針」を策定しているそうです。収納手順や法的措置を行う場合の手順など、未納解消のための処理方針を定めたものだということです。

石鳥谷学校給食センターでは、平成23年度末の未収金額が、全体でおよそ320万円あり、その内平成23年度分の未収が64万円ほどで、残りが過年度の未収金ということです。平成23年度、24年度については、各学校の努力により過年度分の収納状況も改善してきており、献立などへの影響もなく運営されているということでした。

似内英悦副会長

石鳥谷学校給食センターから聞き取りの結果のお話でした。

実は、私は石鳥谷学校給食センターの学校給食運営協議会の監事でございます。指摘する方の立場ですが、実際困ることはあるようです。樋口さんもおっしゃいましたが、年度末ぎりぎりにまとめて収める人がおりますが、年度内に納めたことにはなるけれども、3月にお金が入ってきてもその年度の食材は買えないわけです。ご承知のとおり3月分の食材は2月に発注します。支払いに間に合いません。したがって、期日までに納めていただきたいということになります。

これは、永遠の課題かと思うところもあります。差し押さえというご意見もありました。皆さんから、ご意見を是非いただきたいと思います。

不能欠損をしてはということもありましたが、兄弟がいる場合、払わなくてもいいと受け取られるようなことになってしまい、この場合はそぐわないということで、ずっと未納を引き継いでいるという状態です。

樋口正洋委員

父母からは、未納家庭の公表という意見もあるので、それを学校へ言うと払わないのは親だが、子供のことを考えると難しいという話になっています。

佐々木さつき委員

中学校では、年度の初めに念書（注：学校給食申込書）を親が書いて出しています。「給食費を必ず払います」と。それに親が署名しているのにもかかわらず、これだけ払わないということは、いったいどうなっているのでしょうか。

岩館大輔委員

これは食材費ですよ。ということは、年度初めにお金があれば助かることですよ。年度当初にローンを組んでもらって、後の債権はカード会社に回収してもらおうというのもあるんじゃないでしょうか。

似内英悦副会長

協議会として、皆さんの意見を提言して構わないと思います。

晴山美紀子委員

この問題には長い歴史があります。好地地区ですが、いくつかの家庭はわかります。普通の生活をしています。兄弟もいて上の子も払わなかったでしょう。だから「払わなくても何とかなる」と思っているのだと思います。生活保護を受けるような様子もないですし、困っている様子もないです。だから、厳しく言ってもいいのではないかと思います。

私は石中の学校評議委員もしているので、経緯はわかりますので、そういう方には厳しく言ってもいいと思います。

熊谷幸雄委員

親本人に言ってもだめでこの状態なのだから、その先の法的手段について言ってもいいということですよ。

晴山美紀子委員

そういう訴訟があるとかですね。

立花英一委員

私もしばらくぶりでこういう実態を聞いて驚いていますが、商売屋としては、お金がないとどうにもならないと思いますし、しかし教育の現場では触れにくいことだとは思いますが、この未納問題が子供たちの将来に影響することはあるんじゃないでしょうか。例えば進学とか。

樋口正洋委員

そういうことはないと思います。

立花英一委員

実態として、親が払わないと子供に影響があるならどうかと思うでしょう。そういうことでなければ、この際、踏み込んで対応しないと数年後も同じ話をしていくのではないかとちょっと危惧を感じます。

樋口正洋委員

悪質なのは公表していいと思っています。

伊藤邦彦委員

念書（注：学校給食申込書）も書いているのなら、差し押さえをしてもいいと思います。

樋口正洋委員

差し押さえをするというところまでは書いていないが、支払うことは書いています。

伊藤邦彦委員

役所で方針もあるのなら、そのとおり事務を進めないのも悪いと思います。

立花英一委員

このことは、とにかくいろいろな場面で話題にして社会問題化して、払わないことは悪いことだと意識させていくことを重ねた上で、差し押さえなど一歩踏み込んだ対応をしていくということではどうでしょうか。

樋口正洋委員

石中の校長先生からも、いろんな場面で取り上げてほしいといわれています。

熊谷幸雄委員

テレビ等でご存知のとおり、今、携帯代は払うけれど給食費は払わないとか、給食は市で払うものだという意識の親が出てきている中に、払わなくても何とかなったという経験の蓄積がある人もいると思うので、訴訟を起こす等の行動を起こすことを、親であるPTAでも全体に話題にしていくことをしなければ本人へ届かないと思います。親本人へ届くことが必要だと思います。

似内英悦副会長

はい。大体意見が出たと思っております。まず始めには、PTA等、いろんな場面で話題にし、世論形成をして欲しいということだと思います。次は、念書（注：学校給食申込書）の効力を十分理解してもらうことだと思います。3番目は、プライバシーの問題もありますが、公表するという事。公表しても納めなければ、4番目の最終手段の差し押さえとそういう段階ではないかなと、皆さんの意見を聞いてそのように思いました。地域協議会の順番としては、このようになりましたが、どうか地域に帰りましたら、地域協議会でここまで踏み込んだ話題になりましたよということ、何かの場面で話題に出してもらうということで、いかがでしょうか。

藤原真紀男委員

私も、熊谷委員の意見に賛成です。地域でも話題にして、今は子供の少ない時代ですから地域でも子供を育てるように、具体的な話し合いをしていく、身近なところから話題にしていくというのでいいのではないかと思います。

似内英悦副会長

こういう形で樋口さんよろしいでしょうか。

樋口正洋委員

はい。

似内英悦副会長

それでは、次に(3)地域行事の現状をお願いいたします。

樋口正洋委員

地域行事の現状ですが、各地にいろいろな地域行事があると思いますけれども、人を集める側の立場になると、なかなか人が集まらないと思うことがあります。ここに資料を出していただいておりますが、私が考えているのは資料よりももっと小さな地域の行事です。例えば、コミュニティだとか地区の体協だとか自治公民館での行事です。参加する側から、運営企画の立場になってみてなかなか大変なことだと思うことがあったので課題として提案いたしました。

子供が関連する行事は、参加率がいいがそれ以外は周知不足なのかあまり知られていなかったりします。でも、参加して見ると案外楽しいものが多いと思います。

また、ここに提案されている佐々木さつき委員の提案にあるように、この年代（30代、40代）の方々の参加は少ない印象があります。以上です。

似内英悦副会長

どなたか、ご発言ございませんか。

課題の概要の中の最後の「皆さんが積極的に参加したが見受けられる。」解決の方法としては、行事の数の整理についてここに記載があります。

樋口さんの課題「地域行事の現状」と佐々木さつき委員の課題の中の30代、40代の参加が乏しいということですが、いかがでしょうか。この行事の内容、数、整理すべきなのでしょうか。参加を促すにはどうすればいいのでしょうか。

樋口正洋委員

いろいろな行事の企画をしている方々がものすごく一生懸命にやっているのですが、たくさん参加してほしいと思うのですが、外からだとなんか見えなかったりすると感じています。

藤原真紀男委員

60代だったら参加しやすいということもあるけれども、30代、40代はある程度割り切ることもあるかなと思います。確かに難しいですね。

樋口正洋委員

参加してやってみれば、確かに楽しいことが多いですけどね。

玉山規矩夫委員

催し物の数が多いということもあるかも知れませんが、主催者が一生懸命取り組んでいて参加者を増やそうと結構いろいろPRをしていると思います。しかし、行事案内を目にしても、それを覚えていて参加しようというような、一歩踏み込んだ参加意識というかそういうところに行っていないということで、行事が多いということだけでなく、参加の積極性が足りないのではないかなと思います。自分も役員の際に企画に参加したときに、（参加者が思ったほどでなく）一生懸命企画した行事がもったいないと思ったことは、やはりあります。

似内英悦副会長

地域行事の数の方はどうですか。数の弊害はないですか。

熊谷幸雄委員

数の弊害はあるのではないのでしょうか。昔なら、行事を企画する団体が限られていて、石鳥谷地域の年間行事を予め日程調整をしたりしましたが、地区のコミュニティや自治公民館などでも行事があります。それらに携わっている人はそれだけでも十分行事をこなしていると思います。また、合併して市の行事も入ってきているので、参加している人は結構出ていると思います。

ここに出ている30代、40代の人たちは、地域の行事以外の子供の送迎や行事などほかいろんな行事等に出ているのだと思います。だから、「出なくても…」

という考えがあるのではないのでしょうか。また、私が若い頃は、行事に参加するなら1日がかかりで、とことんしようという気持ちでしたが、今の様子を見ると、半日は参加しても午後は家族サービス等をするというように、また、先週は参加したから今週は参加しないというような時間の使い方をしているので集まらないのかなと私は感じています。

行事の数は確かに増えていると思うけれども、地元なりに計画しているのであれば、こなせるように計画しているのではないかと思います。

似内英悦副会長

樋口委員さん、定期行事の現状というのは、佐々木さつき委員さんの提案のようなコミュニティ等での小さな単位の行事のことでしょうか。

樋口正洋委員

小さな単位の行事です。私は八幡地区ですが、地区民運動会とか親子ソフトボールなどです。

似内英悦副会長

はい。ほかにどうぞ。

立花英一委員

私は、事業の数とか、事業の中身とか、事業費がいくら掛かるとかという大きなイベントをしたとしても、来る人は同じだし、世の中楽しいことはたくさんある中で、普段からの生活、日常、地域の繋がりとか、公民館活動とか、PTA活動とか、同好会活動とかの小さな繋がり、コミュニケーションで大きなイベントや行事に繋がっていったような気がしているので、事業の内容さることながら、普段の小さな繋がり、コミュニケーションというものを、普段から育てていくことがこういうことにも繋がっていくのかなと思います。すぐ効く特効薬のようなものはなかなか今の時代難しいのかなと感じます。

似内英悦副会長

そうしますと、樋口委員さんと佐々木さつき委員さん、そして皆さんにも確認していただきたいのですが、地域の現状という課題と、佐々木さんの課題と共通する形になるようですので、単独の課題というのではなく、この地域活性化の括り、前の会議で「地域共同体の再生」、「町のイメージ」、「石鳥谷地域内コミュニティ会議共同事業」、「商店街の活性化」、「若い世代のコミュニティ参画」をひとつの話題として話し合いましたが、この中に、含んでもよろしいですね。

樋口正洋委員

はい。

(頷く委員多数)

似内英悦副会長

わかりました。そういうことといたします。ただ今、残っていた2つの課題が話し合われたところです。

次に、今年度はあと1回会議を開催していくということでもありますので、ある程度の方向性を見出してそれをまとめていただいて、最終会議で確認していくというようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

今度は、資料の掲載順に戻って進めていきたいと思っております。

では、(1)高齢者福祉についてということですが、話題として挙げられたのは記載のとおりということではありますが、これに対して何かご発言ございませんか。

(菅原総合支所長からの話題提供資料配付)

似内英悦副会長

ただ今、総合支所長さんから、情報提供として「埼玉県みやのかわ商店街振興組合」の資料が配られました。

支所長さんどうぞ。

菅原総合支所長

はい。なかなか高齢者福祉の対策、支援について、奥が深く前回も進まなかったもので、雑誌からの事例を資料として配布させていただきました。援助を必要とする高齢者の方、障がいのある方、子育て世代の方などに有償で支援するシニアのボランティアの方々の組織の活動の紹介です。

(以降、「埼玉県みやのかわ商店街振興組合」の事例について説明)

似内英悦副会長

いわゆる「共助」の事例として、支所長さんからご紹介がありました。

具体的には、何をすべきかの事例だったと思います。

菅原総合支所長

これは、シルバー人材センターにお願いするよりも、もっと身近なサービスとして、話し相手とか、買い物などで、シルバー人材センターとは競合しない仕組みなようです。

似内英悦副会長

はい。これは第3回までに出された話題の「サービスを点数により利用できる制度はどうか」という意見へ対応した事例であったと思います。

ここにありますように、「高齢者福祉について」はいわゆる介護の問題とサービスを受ける場合についてとなると思いますが、これを整理していくと、具体的に踏み込んでくるとすれば、今まで出されたことで「ここを強調したい」とか「これを取り上げたい」とかというところはございませんか。

共通のテーマとしては、1つは「公的な高齢者福祉の対応」、もう1つは、ただ今ご紹介がありましたとおりの「地域での支えあい」共助ということが出ているのかなと思います。公と民ですね。この2つによっての高齢者福祉の充実。具体的には、公的な面はいくらでも言えるわけですが、私的（民）についてはどうあるべきかというところです。ご発言を。こういう共助の方法がありますし、コミュニティ会議でも共助ということが出てきていると思いますが。

晴山美紀子委員

今各地区で、月に1回、お年寄りを集めてお昼を食べておしゃべりをして解散をするという、サロンという取組みがありますよね。私は駅前に住んでいるのですが、地区のお年寄りはすごく楽しみにしています。それのお手伝いをする人達があります。参加者は80代、90代の人達ですが、お弁当の手配をしたりお茶の準備をしたりするお手伝いの年代は、私の世代（60代）です。40代、50代の方はまだ時間的にまだ余裕がないから、できない状態ですけれども、私はまだお手伝いできず、近くの元気な70代の方にお手伝いに行ってもらっています。そういうお手伝いしている人はボランティアをしていることですから、それをボランティアのポイントとして貯金すると、まだお手伝いできない私たち年代（60代）の人でも、段々こういう制度なら参加しようかなということもあるのではないのでしょうか。

この事例は本当に奇跡の商店街だと思いますけれども、新しいことをはじめようとしても大変だと思うので、例えば、どこでもやっているこういうシステムを利用して、ボランティアポイントをつけるなどの方法にしたら、ないものから立ち上げるよりもあるものからだったら、手伝ってみようかなという風に繋がっていくのかなと思いました。

似内英悦副会長

サロンは、社会福祉協議会の事業ですね。

菅原昭造会長

このサロンの事業は、旧石鳥谷町が岩手県で初めての取組みでした。ここは発祥地です。お話がありましたように、いわゆる老老ではないでしょうけれども、お世話する人がかなり高齢化してきております。ですから、今の話題にありますように、このポイントが貯まって行って、将来そのポイントが何らかの形で役に立つということであれば、すばらしい結果になるのではと思ったところです。ありがとうございます。社会福祉協議会でも援助しておりますが、地域のコミュニ

ティ会議でもたくさんの金銭的な支援をしていただいていると聞いております。

晴山美紀子委員

例えば、お弁当を配る配食ボランティアも何人もいません。そういう、既にあることから進めれば、少し進むのではないかなと思います。

似内英悦副会長

結論が見えてきたような気がします。今ある高齢者を対象とした活動に対して、実際に活動している人達の活動を充実させるためにポイント制ということを導入してみてもどうかということで、私的な（市民の）取組みとしてはいかがでしょうか。

菅原昭造会長

民生委員の会長さんもおいでですので、会長さんからお話をいただければどうでしょうか。いろんなボランティアがあると思いますが。

高橋貢委員

たぶん現在でも、旧石鳥谷の中では40以上のサロンが実際活動されていると思います。今おっしゃったように、実情的には社協さんから援助を受けているということで、いろいろな事務処理が大変だから活動しなくなったというようなことも聞いております。また、お世話する人が高齢になってお世話できないというようなことも聞いております。

いろいろな方法で活性化する機会があるでしょうけれども、どういう団体が先頭に立ってやっていくか、社協だったり、市の主導での団体であったりあると思いますが、その道をつけるところが難しいところかなと個人的には思います。

似内英悦副会長

道をつけるということですから、地域協議会としてはこのようにまとめたということで、皆様に公表して、地区のコミュニティ会議等にこういう風にやってみてはいかがですかという提案をしてという形になるのかなと思います。それぞれのコミュニティ会議で福祉の部会は持っていると思いますので。

介護のベッド数を増床してほしい等は、市へ要望することでしょうけれども、今、晴山さんからご発言いただいたアイデアは、いいアイデアとして、協議会の総意としてまとめていくというのではいかがでしょうか。

（頷く者あり）

似内英悦副会長

はい。それでは次に「酒まつりの開催について」ということですが、皆さんど

のようにまとめていったらよろしいでしょうか。

伊藤地域振興課長

はい。よろしいでしょうか。

似内英悦副会長

はいどうぞ。

伊藤地域振興課長

前回の会議で酒米のことについてのお話がありましたので、農協より酒米の作付け状況等を聞いております。

平成24年度の作付け状況は、花巻市全体で73ヘクタール位。石鳥谷は71ヘクタールとなっております。ここ、3、4年程は70～75ヘクタールで推移しているそうです。最高に作付けしたのは平成17、18年頃で120ヘクタールまで作付けが伸びたということです。なぜ作付けが減ったのかと聞いたところ、需給と供給のバランスだという回答でした。作付けしても販売できなければ、どうにもならないということで、その辺りの適正が70～75ヘクタール位ということなようです。酒米は翌年まで持ち越すことができる米ではなく、収穫の年の冬には使わなければならないものだということです。第2には、食用米に比べて価格の優位性がなくなったということでした。ちなみに、24年産米「吟ぎんが」で7,100円位です。

県内の酒米作付け状況ですが、石鳥谷の主力品種の「吟ぎんが」は、23年で148ヘクタール。県北主流の「吟おとめ」は、47ヘクタール。それから、ニュースに出ておりました「酒米98号」は、陸前高田で作付けし始めたということで、震災復興で地元の酒屋でということで地域限定だということでした。

以上酒米についての情報として聞いて参りましたが、簡単に作って売ろうというのは難しいのかなと感じました。酒造組合さんの方で買い取っていただくものだ聞いております。終わります。

熊谷幸雄委員

よろしいですか。私も「吟ぎんが」の作付けをしていますので。

似内英悦副会長

はい。どうぞ。

熊谷幸雄委員

120ヘクタールまで作付けが伸びたということでしたが、現在は76ということでした。新堀のカントリーエレベータは100ヘクタールの処理能力があります。米の買い取り価格は、一番作付けがあったときは値段の差があり、カント

リー利用で運搬までしても、価格差の旨みがありました。その販売格差が減ったことが作付け減の原因だと思います。しかし、今年は昨年より価格が上がりました。農家としてのメリットは、12月中に生産販売が終わるということです。くず米も含めて12月中にすべて売れてしまいますので。

県外へ出ている杜氏さんの中にも、「吟ぎんが」を使っている人はいます。石鳥谷でもっと作っていいと思うのですが、デメリットをどう克服するかということがあると思います。杜氏さんの中には「ほしいくらいもらえない」と言っている人もいますので、それを考えれば100ヘクタールまでは作れるのだから、カントリーエレベータへの搬入の方法の検討が必要だとしても、少し価格が高いというところで価格が安定してくればいいと思います。後は、販売先が見つからないから価格が下がったという言い方もあるようですが、「売ってもらえない」という杜氏さんがいるのだから、酒米を農協で杜氏さんや関係者とで何とか販売してもらえれば、石鳥谷の作付けの増加になるのではないかと思います。先ほどの「酒米98号」などの例のように、ここの地域限定の清酒ができるとか、酒米産地として、花巻や石鳥谷のピーアールにつながるのではないかと思います。

似内英悦副会長

ただいまの伊藤課長さん、熊谷委員からは、酒まつりの課題のうち、そのお酒のあり方というお話だったと思います。石鳥谷の「吟ぎんが」を使ったお酒をつくってくれば良いなど。農家は「吟ぎんが」を栽培し、それを杜氏さんに活用してということでした。しかし、というお話はありませんか。

需給バランスというお話もありましたが、農業関係者の方、何かございませんか。あるいは、買う方の立場からはどうなのかということはありませんか。値段の問題もあるでしょうし、岩手県で働いている人はいいでしょうが、県外勤務の杜氏さんなら地元産の酒米もあるでしょうし、買う側のその辺の情報はありませんでしょうか。

伊藤地域振興課長

県内の造り酒屋であれば、優先的に「吟ぎんが」を使えると思いますが、関東関西のことを考えると、やはり、そちらの米もあるので杜氏さんの意向ばかりでは通らないこともあるかも知れません。

似内英悦副会長

酒まつりの開催についてということでは、石鳥谷の米を使った酒を売り込んでもらいたいということが1つと、酒米のことが話題に上りましたが、あとはございませんか。

藤原眞紀男委員

石鳥谷の酒屋では石鳥谷の「吟ぎんが」を使っているのでしょうか。

伊藤地域振興課長

はい、使っております。ただし、石鳥谷の酒米ばかりで酒を造っているわけではなく、複数の銘柄を使用しているようです。

藤原真紀男委員

「吟ぎんが」を、施肥を含めてもう少し特徴を持った米にして、これを地元の酒屋さんで特徴のある酒を造って全国に負けないようなものを造っていきましようというのが趣旨だったように思います。一時、地酒ブームということで、見栄えのいい商標を取って売り込むということがありましたが、今はもう少し本物の嗜好を求めるといふこととか、何かそういう方向ではなかったかと思えます。

似内英悦副会長

いかがでしょうか、どなたか。農業青年部さんでは話題にはなっていないでしょうか。

伊藤邦彦委員

話題にはなっていませんが、この酒まつりに関しては、何を作るかというよりは、石鳥谷で南部杜氏を残していくために南部杜氏を応援するまつりにするのか、それとも、全国、せめて岩手県内へでも、石鳥谷の酒というものをピーアールすることで石鳥谷以外から人に来てもらうのか、どちらの焦点を当てるかを決めないと、話が散らばってしまうのではないかと思います。

似内英悦副会長

石鳥谷の酒まつりを盛大にしたいということから、それに付随した形で杜氏のまつりにしてもいいのではないかと、石鳥谷は酒の町だよというピーアールしていく。そのピーアールの1つの手段として酒米がある。これも売り出してはどうですかということだと思います。

この酒まつりのあり方という方へシフトしていきたいと思えます。ここに皆さんからいろいろな意見をいただいておりますが、こういう風にすれば、活発化するのではないかと、石鳥谷のピーアールになるのではないかとということがありましたらお願いいたします。

石鳥谷の地元で知らない人がいるということもありました。これらの人たちにはどんな手段を講じていったらいいでしょうか。

南部杜氏の酒まつりは、何年頃から実施していますか。

伊藤地域振興課長

合併前は、酒まつりとして、年2回開催の年もあったのですが、合併後の平成18年は休みました。19年から現在の名称で開催し今年が第32回となっております。

ります。

熊谷幸雄委員

石鳥谷の酒まつりの現在の形は、町外、遠方からの方も参加しますが、石鳥谷で鑑評会の酒が飲めるとか、お酒を飲みながらジャズが聴けるとか、お酒が飲める人でないと楽しめないような形になっているのではないかと思います。

だから、限られた人しか参加していないのではないのでしょうか。料理に特徴があるわけではないですし、それが慣例化しているのではないのでしょうか。酒ばかりでなく、石鳥谷の産品など食べ物でも何か添えることができないのでしょうか。

杜氏さん達も来ていますが、これは自分の酒だと言って勧めることはないですね。名の知れた杜氏さんなら、立っているだけでも名札でわかるかもしれませんが、そうでもなければ、誰か知らない人が立っているとしか参加者は思わないのではないのでしょうか。本気になって何か考えないといけないのではないかと思います。

まちの駅のほうでやっている鍋ワングランプリと合わせてやってみるとか、石鳥谷の食べ物とか漬物とか、とにかく石鳥谷の何かと合わせなければならぬのではないかなと思います。

岩館大輔委員

我々もそういう提言をしているのですが、場所、会場の問題だとか、改良をしていきたいとは思っています。

伊藤邦彦委員

飲まない人は楽しめそうにないですよ。今のままだと。飲みにいかない人は誘われないまつりだっていうことですよね。だから、これを盛り上げるようにしたいなら飲まない人でも楽しめるような方向にしないと、結局は分母が増えないと思います。

似内英悦副会長

酒まつりは実行委員会組織だと思いますが、主体はどこですか。

伊藤地域振興課長

事務局は、市でということで、石鳥谷総合支所となっております。

似内英悦副会長

酒まつりとはいうものの、飲めない人のことも考えなければならないという貴重なご意見をいただきました。いい視点だと思います。

伊藤地域振興課長

今年度の「南部杜氏の里まつり」についてお話させてください。

会場の収容人員数の関係で生涯学習会館での開催となりました。そのため、中央通り商店街で行っている酒蔵まつり「春の陣」には会場を生涯学習会館に来てもらって同日開催したという形になりました。同日開催により、飲まない人は昼の部で楽しめたと思いますし、お酒の方は夜の部でということになりました。

皆さんの話を聞きながら、今後、料理やサービスなども含め、いろいろ考えていかなければならないと思っております。実行委員会の方にも皆さんのご意見を伝えたいと思っております。

(頷く者あり)

似内英悦副会長

はい。こちらのまとめとしても、実行委員会へ伝えるという方向でとしたいと思えます。それに付随して、石鳥谷の酒米を使った酒の販売等などにつながることを期待してまとめたいと思えます。

それでは、次に「権現堂山の登山道・付近の整備」ですが、これは八重畑のコミュニティ会議さんでしたね。市としての整備について、その後は何かありますでしょうか。

高橋地域振興課長補佐

前回の協議会での報告時では、工事中ということでしたが、その後12月中に完成検査が行われました。今年度の整備は完成しております。その後のことにつきましては、現在のところ計画はないという状況です。

似内英悦副会長

佐々木委員さん、八重畑のコミュニティ会議の方での動きはありますか。

佐々木さつき委員

この整備をしていただいても、そこに利用者がいないと今後の整備にもつながらないので、小学校に働きかけて夏には登山をとということで、身近にこういうところがあるよというように知ってもらうことをしています。ただ、ここにも記載しているように、石鳥谷地域の皆さんにも知ってもらうということが一番なのかなとは思っています。八重畑地区内だけでなく、ほかの地区の方々にも子供会などでも使ってもらえるよう八重畑コミュニティとしては、そういう来た人をガイドができるように山の会の方をお願いをしたりということを考えています。

似内英悦副会長

はい、ありがとうございました。

藤根さんがおいでにならないのですが、八重畑コミュニティ会議の動きを見な

がら、地域協議会としては何をしていけばいいのかということで、ここは特にまとめなくてもいいのではないかと思います。八重畑コミュニティ会議の動きに注目していくということで、そういう形にしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(頷く者あり)

似内英悦副会長

それでは、(3)の地域行事は、次の、まとめて協議の分に入れて協議したいと思いますし、給食費の未納問題については、先ほど、ほぼ方向性が見えたと思いますので、これはこういう形でいいのではないかとということで整理させていただきます。1つ目は、話題にしていく。2つ目は、念書(注:学校給食申込書)というものを尊重することとして、念書(注:学校給食申込書)を無視するなら、公表してはどうか。公表してもどうにもならないときは、差し押さえというところまでの考え方で整理したいと思います。

(頷く者あり)

似内英悦副会長

それから、生涯学習(生きがいつくり)の充実についてということですが、ここに今までの意見が出ておりますが、常時利用できる空き施設の利用についてのご意見何かございますか。

伊藤地域振興課長

よろしいでしょうか。

似内英悦副会長

はい。

熊谷地域振興課主査

前回の会議の際に、生涯学習会館の部屋を利用できないかというお話がございましたので、まなび学園(花巻市生涯学習都市会館)で常時、固定利用している部屋はないかということで、口頭で聞き取りいたしました。

なお、石鳥谷生涯学習会館では、皆さんご存知のとおり、固定利用の実績はないということでした。ただし、すぐ片付けられる、物が移動できるということを条件に結果的に物を置いていたということはあるそうです。

まなび学園(花巻市生涯学習都市会館)では、常設利用している部屋は、団体事務局に対し2部屋貸し出ししており、趣味の団体サークルなどへの貸し出しはないそうです。貸し出しは、花巻市女性団体連絡協議会と花巻市芸術文化協会ですが、暖房料、冷房料の実費負担はあるということでした。以上です。

似内英悦副会長

はい。部屋の使い方についての事例でした。

玉山規矩夫委員

課題の部分に書いてありますとおり、生涯学習会館のような施設はそうだと思いますが、振興センター単位には、旧花巻市では、機織りで場所を専用しているような事例はあるのです。旧花巻市との格差を感じているので、そこを是正するような取り組みをしてほしいというような提言ではどうでしょう。

似内英悦副会長

行政に対しての提言ということになります。

伊藤地域振興課長

東和、大迫地域については、公の施設には、そういうような常設して利用出来るスペースはないということです。

似内英悦副会長

湯口、湯本、笹間、宮野目の振興センターには、部屋を整備してありますが。

伊藤地域振興課長

石鳥谷の6施設を指定管理ということでコミュニティにお願いしているわけですが、施設の関係で専用スペースを取れるか取れないかということがあると思いますので、地域協議会の提言とすれば、コミュニティとの話し合いも必要になると思われます。

似内英悦副会長

旧地区公民館の湯口などは今も継続しているのでしょうか。

玉山規矩夫委員

継続して使っています。

熊谷幸雄委員

旧公民館だからあったということでしょう。使える部屋に常設していて、それが振興センターになったから使えるというのであって、だから、石鳥谷も、と言っても振興センターに部屋はないのが実情だと思います。八日市も部屋はありません。ですから、名指しで生涯学習会館にということではいかがですか。

玉山規矩夫委員

振興センター単位でと望んでいるわけではありません。合併して市の財産になっているのだから、空いている市の財産、施設の中で考えられないかということですね。それが出来ないのなら、空き店舗を借り上げてそこを使わせるとか、方法はあると思います。生涯学習課はこれをどう考えているのか聞きたいです。

伊藤地域振興課長

ただいま報告いたしましたとおり、石鳥谷生涯学習会館の部屋の利用実態ですが、物を置いていた部屋があったりすることから、そういう部屋を使用することなどを地域協議会としてお話をすることは出来ると思います。前回の地域協議会の時も少しお話ししましたが、農業伝承館のあり方というものを教育委員会で検討しているということをお知らせしたわけですが、まだ正式にどうなるかということは聞いておりません。石鳥谷地域として提言ではありませんが、農業伝承館について、石鳥谷地域としてこういうような話がありますよということ、事務局から文化財課の方に情報提供をしていきたいと思っています。

似内英悦副会長

伝承館についてはそうだとしても、生涯学習会館など、名指しではないにしても市の施設で利用度が少ないような部屋があったならば、そこに生涯学習のひとつとして機織り機械を置かせてもらうことについての提言をするということ。あくまで利用度の少ない部屋にということではいかがでしょうか。場所は指定しませんが。

玉山規矩夫委員

いいと思います。

似内英悦副会長

そういうことでよろしいでしょうか。

(「はい」の声多数)

似内英悦副会長

それでは、この括りで共通のキーワードということで記載していただきましたが、「地域の活性化」、「町全体の一体感」、「共同事業」、「後継者問題」、「若い世代の参画」、「人が集う場所」、「イベント」、「楽しみ」、「拠点」こういうようなことが挙げられております。これは、大きな、壮大な中身だと思います。まとめられるかわかりませんが、皆さんから話題を出していただきたいと思っています。

似内英悦副会長

私の感想ですが、ここにコミュニティ会議の役員さん方がおいででございますが、石鳥谷地域の各コミュニティ会議の会長さんとか役員に方々の集まりがあります。出席してみて、石鳥谷地域全体ということでの考え方に何か温度差があるような感じがしました。それを何かひとつにまとめるためには、この地域協議会のメンバーの皆さんと各コミュニティ会議の代表等の方々と懇談をして、石鳥谷地域の全体をどうするかというようなことが出てこなければならぬのではないかと、私は感想として感じました。

どうまとめればいいのかわかりませんが、地域協議会だけがいろんな提言している。地域協議会で提案したことは、コミュニティ会議ではどう受け止めているのかということが見えないし、6コミュニティ会議のそれぞれの考え方というものも、どう考えているのか。温度差があるような感じがしましたので。

今まで、コミュニティ会議の代表者との話し合いを持ったことはありますか。

菅原昭造会長

ありませんね。

熊谷幸雄委員

4年前の任期では、八幡の会長さんがいましたけれども、あとは会長さんでの委員はいませんでした。

似内英悦副会長

そういう意味で話題を公開したい。石鳥谷地域協議会ではこういう話題が出てくるなどの情報などですが、どんなものなのかと。石鳥谷地域全体の共同事業の実施についてもコミュニティ会議で温度差があると感じました。できるなら、私共、地域協議会とコミュニティ会議役員と会議を持つてはどうかと感じました。

玉山規矩夫委員

そこは、私も感じておりました。コミュニティの代表として出てほしいということで委員を引き受けているわけですがけれども、地域の課題を話し合いしようとしても、委員として話題を出してほしいと任せられてしまいました。地域協議会としてコミュニティの代表者と問題を共有していかないと、それぞればらばらでまとまらないということは確かにあるので、話し合ってみる必要はあるのではないかと思います。時期は次年度でもいいので。

菅原昭造会長

大変大事なことだと思います。今年度は、機会が持てないかもしれませんが、是非その機会を持つてはいかがでしょうか。コミュニティ会議のそれぞれの組織の代表であります委員さんには、それぞれのコミュニティ会議にお伝えいただきたいと思います。

似内英悦副会長

コミュニティ会議でも共同事業は持ってはいますが、ここは石鳥谷地域としてこういう課題がありますよということ、私共が地域の課題として見つけたものでこの地域協議会ではこうしてはどうだろうということが出てきたものです。これについて、これを話題にして、コミュニティ会議の方々と一同に会して話し合ってみるということにして、これは結論を出すという形ではなく、結論というのは、次年度送りのことにしてみる（継続協議）というのはいかがでしょうか。

伊藤地域振興課長

この会として、そういう意向であるということであれば、コミュニティ会議の方へお伝えしたいと思います。昨年度は、平成22年、23年の2年間に亘って話し合ったことについて、各コミュニティの方へ文書で渡しております。

昨年度は、文書を渡す際に、内容はこういう内容を地域協議会で話し合ったのでコミュニティで取り組めるものは取り組んでほしいし、また、もう少しコミュニティで深めるものがあれば取り上げてほしいということで、コミュニティの会議の代表者の会議の際に地域協議会の会長が出向いてお話したいと申し出をいたしました。会長の出席は結構ですという回答があったという経緯はございました。

今年は協議会の意向として、このことは伝えます。毎年持ちまわりの当番幹事のコミュニティ会議へ伝えるだけではなく、各コミュニティ会議へそれぞれ声をかけたいと思います。

似内英悦副会長

声をかけるだけでなく、会長さんがお話したとおりに会合を持ちたいということ地域協議会から正式に文書でご案内を出すことでいいのではないのでしょうか。その懇談の内容は、地域協議会では、ここにある壮大な地域課題が石鳥谷地域としての地域課題として話題になっているのだということと、これらについて知恵を絞っている最中だが、コミュニティ会議の皆さんからの意見もいただきたいので協力していただきたいということではどうでしょうか。これらの課題は壮大なものなので、今すぐ結論を出して来年提言をしましょうということではなくて、一度コミュニティ会議の皆さんと懇談しての意見を聞いてみたいということであり

そういうことではいかがでしょうか。

玉山規矩夫委員

いいと思います。

（頷く者あり）

似内英悦副会長

懇談内容は、このまとめて協議をするこれらの課題ということです。

(石鳥谷地域コミュニティ会議の代表者等との懇談について、4月以降に地域協議会から各コミュニティ会議へ文書で依頼をすることとし、懇談の内容は次の6つの課題とすることとした。)

- ※協議課題名
- (2) 地域共同体の再生
 - (3) 地域行事の現状
 - (7) 町のイメージを高めたい(H23協議課題)
 - (9) 石鳥谷地域内コミュニティ会議共同実施事業
 - (10) 商店街の活性化
 - (11) 若い世代のコミュニティ参画について

似内英悦副会長

はい。それでは、協議のその他に入ります。

伊藤地域振興課長

前回の地域協議会でお話のございました駅前の案内板について、ご説明させていただきます。

高橋地域振興課長補佐

前回の会議でご指摘のございました、石鳥谷駅前の石鳥谷案内図でございますが、翌日確認いたしましたところ、合併以前の表記がされておりました。特に市の施設関係が公民館表示のままであったり、というものでした。ご指摘ありがとうございました。早速予算の確保をし、とりあえず名称の修正ということで業者発注し、3月にはシール添付による書き換えの予定でございます。

この案内板は、合併前の石鳥谷町が設置です。引き続き市の管理のものであります。以上ご報告をいたします。

似内英悦副会長

はい。では、その他で皆さんからございますか。

伊藤地域振興課長

はい。皆さんに、地域活性化の活動事例のご紹介をいたします。

石鳥谷キャットという団体がございます。商工会青年部OB会の団体ですが、

この団体が20年前にこの「ときめき夢マップ」という冊子をつくりまして、町内のお店を紹介しております。20年を経て実態と合わなくなったということで、今回同じ表紙のデザインを使って作成したということであり、1,000部作成し、関係機関等へ配布すると伺っております。どうぞご覧いただきたいと思っております。

似内英悦副会長

あとは、皆さんからその他はございませんか。

伊藤地域振興課長

ここで、皆さんにご協議いただきたいことがございます。

昨年、この場で協議していることを地域の皆さんに知っていただきたい、周知をするという意味で、年度末に、班回覧という形で2年間のまとめとして「石鳥谷地域協議会だより」を発行いたしました。今回はそれをどのようにしたらいいかをご協議いただきたいと思っております。

昨年度の場合は、任期の2年分をまとめて作成したという経緯がございます。今年の場合は、この段階で発行すべきか、昨年のように2年をまとめるのか、発行するかしないかまでをご協議いただければと思っております。

似内英悦副会長

これについて、みなさんいかがいたしますか。

(「石鳥谷地域協議会だより」として発行することとし、今年度の最後の会議までのまとめを行政区班回覧をすることとした。発行時期は、次年度の早い時期とすることとした。)

似内英悦副会長

あとはございますか。なければ、協議を以上で終了します。

4 その他

似内英悦副会長

その他は何かありますか。

伊藤地域振興課長

ありません。

(次回日程について、2月末以降の開催で会長一任とすることを確認した。)

5 閉 会 似内英悦副会長が閉会を宣した。15：50